

収蔵品展

苫小牧市美術博物館所蔵名品選

Selected Works from the Collection



川上重雄「赤い帽子」1977年

of Tomakomai City Museum

2018. 2.3 sat ▶ 3.18 sun

開館時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日 ※ただし、2月12日（月）は開館し、その翌日が休館日

観覧料：一般 300（240）円／高大生 200（140）円／中学生以下無料

※（）内は10名以上の団体料金です。 ※免除規定がありますのでお問い合わせください。
※年間観覧券でもご覧いただけます。 ※常設展及び同時開催中の中庭展示もご覧いただけます。

主催：苫小牧市美術博物館
後援：苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星

収蔵品展

Selected Works from the Collection

of Tomakomai City Museum



達磨ミマン「赤い帽子」1977年

2018. 2.3 sat ▶ 3.18 sun

開館時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日 ※ただし、2月12日（月）は開館し、その翌日が休館日

観覧料：一般 300（240）円／高大生 200（140）円／中学生以下無料

※（）内は10名以上の団体料金です。 ※免除規定がありますのでお問い合わせください。
※年間観覧券でもご覧いただけます。 ※常設展及び同時開催中の中庭展示もご覧いただけます。

主催：苫小牧市美術博物館
後援：苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星

苫小牧市美術博物館所蔵名品選

2013年7月に既存の博物館に美術館機能をもたせた複合施設としてリニューアルした苫小牧市美術博物館は、2018年に5年目の節目を迎えます。当館では、前身となる博物館時代より、郷土ゆかりの作家の作品を中心に収集してきており、平成29年度現在、所蔵作品の数は延べ1,300点を超過しています。本展では、当コレクションの中から、遠藤ミマン、砂田友治ら苫小牧市ゆかりの作家をはじめ収蔵後初公開作品もふくむ約100点を精選して紹介いたします。

◎出品作家

浅野武彦 岩船修三 梅津恒見 遠藤ミマン 大友一夫 岡沼淳一 鹿毛正三 川上澄生 北川豊
国松登 菅原勇 砂田友治 沼田卓 能登正智 福井正治 本田明二 室越健美 渡辺貞一



苫小牧市美術博物館
所蔵名品選

関連イベント1

ギャラリートーク

担当学芸員が展示室内にて作品解説をおこないます。

日 程：2月3日(土)、3月3日(土)
時 間：11:00～12:00、14:00～15:00
対 象：各回 一般 30名

関連イベント2

ミュージアムラボ「絵画鑑賞会」

展示室内で参加者同士、対話を楽しみながら鑑賞します。温かいお飲みものもご用意しています。

共 催：苫小牧市美術館友の会
日 時：2月11日(日・祝) 13:30～15:00
対 象：一般 30名

関連イベント3

子ども向けギャラリートーク

子ども広報部「びとこま」が作成したコレクションカードを使った作品解説会。

日 時：2月24日(土) 11:00～11:30
対 象：小学生以上 30名

あなたが選ぶこの1点

本展会期中、会場にて出品作品について、お気に入りの作品を投票していただきます。ランキング上位作品については、来年度以降の収蔵品展にて紹介します。

※いずれのイベントも申込み不要、参加料無料ですが、高校生以上の参加者は、当日有効の観覧券が必要となります。

◎掲載図版

1	2	1 鹿毛正三《紅葉の樹前山》1990 / 2 砂田友治《食卓》1972 / 3 国松登《流水・天馬》1975
3	4	4 菅原勇《隧道のある風景》1997 / 5 沼田卓《丘の上の柏原医院》1980 ※いずれも当館蔵

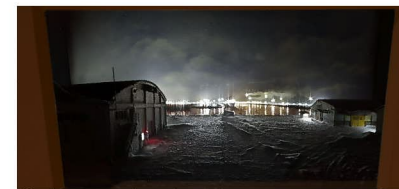
同時開催1

特集展示 / 苫小牧ランドスケープ：坂東史樹 × 佐竹真紀 【第3展示室】

平成29年度新たに収蔵となった、苫小牧の景観を精巧な模型により再現し、そこに現代人の心象を象徴的に投影する坂東史樹の作品と、苫小牧の都市景観におけるランドマークである王子製紙株式会社苫小牧工場の煙突をモチーフとする佐竹真紀の映像作品《Pivot》。胆振日高ゆかりの現代美術を紹介する展覧会シリーズ「NITTAN ART FILE」を機に制作された両作品を同一空間に展示することで、作者固有のフィルターを通して制作された“ランドスケープ／景観”に着目します。

坂東史樹(ばんどう・ふみき/1963ー)

浦河町生まれ。札幌市在住。自身の夢やその時々印象に残った情景を精巧な模型により復元し、意識下に潜する内なるビジョン、あるいは幼年期に抱く幻想などを想起させる心象風景を投影した作品世界を創造。近年はそうした固有の世界像をピンホールカメラで撮影し、リアリティを備えた平面作品として制作発表している。



坂東史樹《苫小牧埠頭 No.1倉庫(インスタレーション「その仔犬をポケットに入れよ。旅を続けよう。」より)》2015 【平成29年度新収蔵作品】

佐竹真紀(さたけ・まき/1980ー)

豊頃町生まれ。札幌市在住。連続的に撮影した写真を用いた、写真アニメーションの手法で実験性の高い映像作品を制作。自身が撮影したイメージと他者の手によるそれとを組み合わせながら、「現在」と「過去」という時間軸が交差する映像表現を展開し、「記録」と「記憶」の狭間にある曖昧かつ普遍的な「記憶の中の世界」を探求している。



佐竹真紀《Pivot》映像作品(音響：中坪淳彦)2017 作家蔵
【新千歳空港国際アニメーション映画祭2017 北海道知事賞受賞作品】

同時開催2

中庭展示 Vol.10 / 前田育子～冬の始まり 【中庭展示スペース】 ※3/11まで

当館の中庭スペースにおいて、その空間を活用した作品を紹介するシリーズ企画「中庭展示-Court installation-」。第10回目となる今回は、陶芸家・前田育子の陶の組み合わせによるインスタレーションを紹介しています。白銀の世界にそびえ立つ黒い土肌のイメージをその根底としながら、単純化されたモダンな形態によって表された同作品は、“現代”と“自然”との融合が意図されており、中庭という半屋外空間に配置されることで生じる変化そのものが作品の一部として想定されています。冬という季節を逐て変容してゆくその風合いにもご注目ください。



前田育子《冬の始まり》2017 展示風景

前田育子(まえだ・いくこ/1968ー)

白老町生まれ。白老町在住。1996年スペイン遊学を経て、97年から98年にかけて北海道工業試験場野幌分場にて研修。質感と土色の異なる層の組み合わせによる工芸品をはじめ、もみ殻の燻煙を利用した黒陶によるマットな質感を活かしたオブジェを制作しており、近年はそのパーツの組み合わせによる作品に挑んでいる。

◎アクセス



●バス 苫小牧駅西口より、のりば①から「24番」「30番」「札幌駅前行」「郊外線」のりば②から「101番」「21番」「22番」のりば③から「13番」「14番」に乗り、「出光カルチャーパーク」で下車(所要時間5分、料金は210円)下車後徒歩約5分

●自家用車 国道276号(支笏街道)と国道36号の交差点(「苫小牧信用金庫中野支店」かど)を港方向へ曲がり、交差点の次の信号を右折。出光カルチャーパーク内に無料駐車場があります。

苫小牧市美術博物館
[巻物・あみぐるみ]
〒053-0011 北海道苫小牧市東町3丁目9-7
Tel.0144-35-2550 Fax.0144-34-0408
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan

●12月4日より経路情報の架け替え工事に伴い通行止めとなります。国道276号をご利用の方はご注意ください。